

第6回定例会開催

12月定例会は、12月3日から11日までの会期で開催されました。本会議では、平成19年度三芳町一般会計補正予算をはじめ、人事院勧告による職員給与の改正、藤久保第2区集会所建設工事請負契約の締結などの議案12件が上程されすべて可決されました。ただし、補正予算1500万円の専決処分は不承認となりました（編集後記）。

★一般質問

町政を問う

今回の定例議会でも一般質問をさせていただきます。

- 一、観光資源の創出と地場産品の活性化について
- 二、協働のまちづくりと財政運営について

の2項目ですが、紙面の都合上主要な質問の要点のみをダイジェストでご報告いたします。

■べにあか紅赤発見110年

『いも祭り』の開催を

林 サツマイモの紅赤が発見されて平成20年で110年を迎える。茨城県東海村、千葉県栗源など「いも祭り」の開催が町おこしになっているケースが産地では多い。「富の川

越いも」の更なるブランド化と、観光の振興のため、産業祭で「いも祭り」の開催の考えはないか。

町長 今の産業祭に、もう一つメインとなるものがほしいと考えている。当町にとって他市町村に勝るブランドであるサツマイモが、主役として中心に出てくることは、産業祭の意義合いも深まる。生産者である振興会と担当課で協議し、ふくらんだ産業祭になるように大いに考えていきたい。

※ 紅赤とは、「サツマイモの女王」といわれ、「金時イモ」の名でも親しまれる。1898年、山田いち（現在のさいたま市）が発見。三芳町の川越いも振興会は、紅赤の振興を目的に設立された。紅赤を原材料とした芋焼酎「富の紅赤」が話題を呼ぶ。

◆解説

今回の一般質問は、「観光資源の創出と地場産品の活性化」というテーマで行いました。平成19年1月1日に観光立国推進基本法が施行。各自治体での取組にまでふれられています。

観光は、大勢の人が当町に訪れていただくことだけではなく、私達の住む町が愛し誇れる魅力ある町にするという「まちづくりの根幹」でもあります。

当町には、三富地割遺跡、サツマイモ、狭山茶、三芳の野菜、三芳祭り、富の地蔵様、車人形など観光資源は多く存在します。

観光資源を発掘し、ブランド化していき、観光という切り口でまちづくりを行っていく戦略と組織体制作りが急務です。

川越いもは、当町の主要な産物です。しかし、更なるブランド化、また第二次、三次産業への展開も課題です。

産業祭で「いも祭り」の開催を提案しました。紅赤110年。三富地割り遺跡の畑で、日本一長い畝での日本一の芋掘り大会。夢がふくらみます。



栗源の日本一の焼き芋広場



東海村110年のまつり

ひたちなか市と合わせて干しもの日本一の産地。産業祭で始めたところ、参加者が5〜6倍の3万人に増えました。